

商都・米子に異変！まちの賑わいに陰り 高島屋・東館と駐車場の市、寄付問題？

市は、「寄付施設」を市開発公社に賃貸し、市開発公社はテナント契約（営業責任）を請負う。又は、資金・財産管理会社を設立し、市開発公社と賃貸し、市開発公社は営業責任を請負うという手法。

餅は、餅屋の声を聞く。

市の補償責任と

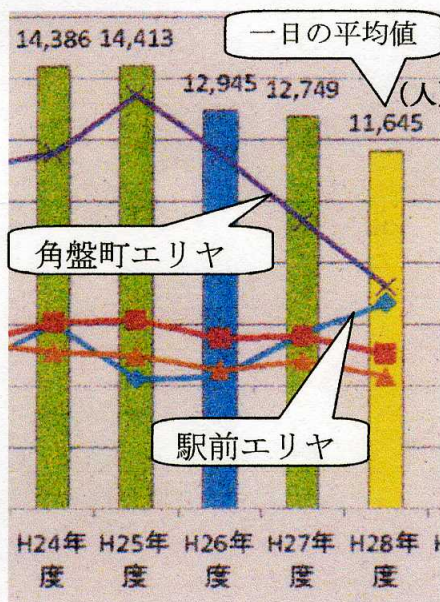
市税の投入！

の最終責任（赤字）は市（税金）が被る。

行政サービスと

賑わいの創出

歩行者等の通行量推移
角盤町エリア、大幅減少
周辺の商店街、影響大！



総合スーパー「やよい」の倒産以降、高島屋周辺は、貸し店舗の看板が目立つ。高島屋「市に寄付」は、周辺のまち景色を象徴する出来事だ。
市は、商都「賑わいの再生」へ、畑違いの「商業経営」と「市税投入」という難問に、どのような「手法」を選択するのか。説明責任が待たれる。

JR米子支社ビル補償費、25.9億円、(債務負担) 予算計上 米子駅活性化と税の投資効果、展望示せず！

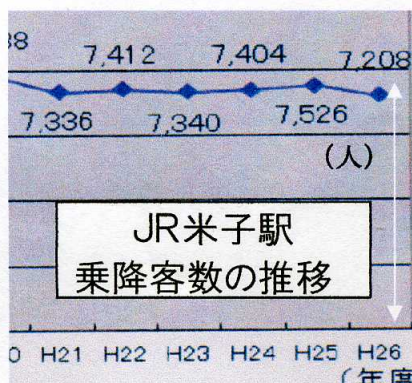
伊木市長は、施政方針で「南北自由通路は、必要不可欠な事業」と強調。駅の賑わいと活性化の具体的な方策は示さず、今後の検討課題としている。
一方、南北一体化と歩道橋の事業効果、新駅ビルの行政参画に、市の説明責任が待たれる！

歩き出した予算&後追いの事業効果

「駅南広場」の補償費一億四五〇〇万円に、JR米子支社・施設補償費二五億九〇〇〇万円の債務負担行為（五年間）を予算議決した。

一日の利用者数が未知数な「歩道橋」の事業費六〇億円と、事業費の半分を占めるJR施設補償費二九億円の税金投入に、市民の疑念は払拭できていない。

市長は、「やった上で、どうするかだ」という選挙戦の舌鋒ではなく、歩き出した予算に、「やったので、どうなるの」という事業効果の説明責任が待たれる。



乗降客に期待！
駅の「賑わい」創出は、JR利用者の増加を図る英知こそが使命だ。

市長は、新駅ビルの行政の参画に「プラネタリウム」の設置を提示。目的を、駅周辺エリアの賑わいの創出としている。
行政は、行政サービスの目的を果たしても、物や金を集める「賑わい」の事業ではない。

新駅ビル・